

今年度の教育方針

〔1〕 学校教育目標

郷土を拓く大地の教育

菅平の発展は、長い年月にわたる先人の開拓のうえに打ち立てられており、子どもたちの教育は、先人から受け継いだ区民のたくましい開拓精神によって支えられている。

いま、社会が多様化し、国際化・情報化の時代を迎えている。本校では、菅平の自然・歴史・産業・文化を大事に受け止め、この郷土菅平の将来や広く日本の未来を一層拓くために、自己教育力を身につけ、豊かな大地に学ぶ心を育てる教育をすすめる。

めざす子どもの姿（中期目標）

- ①自分の良さに気づき、友だちの良さを認め合える子ども
- ②他者への感謝の気持ちをもち続ける子ども
- ③自ら考え、判断し、行動できる子ども
- ④伝え合いを通して考えを深める子ども
- ⑤体験を通して心身を鍛える子ども
- ⑥郷土に誇りをもち、郷土を愛する子ども

【学校長の願い】 「全ての教育活動を子ども理解をベースに展開して」

1 心の教育について

29年度は「互いの良さを認め合い、前向きに取り組む学級」となるように、「教師自らが子どもの良さに気づき、伝え、児童・生徒の意識を啓発する」子ども理解に重点を置き教育活動を進めてきた。また、発達段階に応じた人との関わり方やコミュニケーション能力を身につけるために、「相手意識のある「あいさつ」を心掛け、お互いの個性や立場、いろいろなものの見方、考え方を認め、寛容の心をもって謙虚に学び、自らを高めていく児童・生徒の育成を目指して指導に取り組んできた。

30年度は、新学習指導要領の完全実施を見据えて、主体的で対話的な学習の素地となる「子ども一人ひとりが自分を表出できる」子ども理解をベースとした、学級集団づくりを目指していきたい。

2 学力の向上について

29年度は「“分かりやすい授業”“指導のあり方”を研究していく」という観点から、身につけるべき力やねらいを明確にし、終末の子どもの姿からの授業構想に取り組んできた。

30年度は、終末から構想する一時間の授業に加えて、単元展開を工夫し、教えるべき場面と考えさせる場面、対話的な学習をする場面など「めりはりのある単元展開」をもとに、基礎学力の定着と主体的・対話的・協働的な学習の両立が行えるようにしていきたい。

3 キャリア教育について

菅平では80%以上の保護者が地元産業に就き、また25～35歳の男子卒業生の半数は菅平に戻って生活をしているという特徴がある。子どもたちや地域の将来を考えたとき、菅平の産業（農業・観光業）に携わりながら、地域の発展のために積極的に関わろうとする人材作りは欠かせない。そこで、30年度も重点目標を「菅平の産業に学び、郷土に生きる人材を育てる」とし、重点活動①を「この地に生きることの喜びを実感するために、地域との交流、体験を仕組む」重点活動②を「生活科、総合的な学習の時間やキャリア教育を通して、地域の農産業や観光産業を知る」として、この地に誇りと愛情をもち大切にできる心情を育んでいきたい。

今年度の重点目標

- (1) 互いの良さを認め合い、前向きに取り組む学級づくり
- (2) 友と伝え合い、自ら進んで学習する子どもの育成
- (3) 菅平の産業に学び、郷土に生きる人材を育てる